

中 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

美 術

東京都教育委員会

目 次

I	研修主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究の手立て	3
IV	研究の仮説	4
V	研究の内容	4
○	研究構想図	5
○	検証授業	6
VI	成果と課題	24

研究主題

造形的な見方・考え方を働きかせ、 自分としての意味や価値をつくりだす指導の工夫 ～生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」ことが 実感的に理解できる授業づくり～

I 研究主題設定の理由

1 現状の課題

今を生きる子供たちは、日々の生活の中で、美しい景色や建物を見てリフレッシュしたり、好みの色や形の文房具や洋服・靴などを選んだりしながら、より楽しく気持ちよく過ごそうとしている。こうした姿は、日々の生活や社会を豊かにすることにつながると考えられるが、このようなことと美術の授業で学ぶことの結び付きが認識されることは、あまりない状況であると考えられる。

「平成 25 年度中学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)においては、「美術の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答の割合は 39.8% であり、「ふだんの生活で、美術作品などを進んで見ようしたり、鑑賞したりすることはありますか」という質問に対して、「ある」「どちらかといえばある」という肯定的な回答の割合は、33.6% に留まっている。生徒質問紙調査の全ての質問の中で、肯定的な回答の割合が 40% を下回っているのは、この 2 間のみであり、本調査においては生活と美術との関わりに対する意識が低い傾向が見られると結論付けられている。

さらに、同調査の「教科別分析と改善点」では、鑑賞の能力における「距離感などのイメージや抽象的なものなど、視覚的に捉えにくいものを、造形的な視点をもって捉えること」、また、「形や色彩の特徴などを基に、分析的に対象のイメージを捉えることや、それらを、根拠を明らかにして説明すること」については、課題があると指摘されている。日頃の授業実践の振り返りと照らして考えた際、対象の見方、捉え方、考え方の深まりが浅いことから、美術で学ぶことの面白さに気付けず、「美術での学びが生活や社会へどのようにつながるのか」という考え方につながらないということ、さらに、鑑賞活動が表現活動に相互に作用し、効果的な活動になるためにも適切な鑑賞の視点の設定が必要であることも挙げられた。

そこで、本研究では、様々なイメージを捉える際の「美しい」、「素敵だ」、「好き」という感情や趣向の根本となる「ものの見方」についての考え方を美術の授業の中で示し、生活と美術の関わりを生徒に実感させることができることが課題であると考えた。

2 中学校美術科で求められていること

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」(中央教育審議会答申 平成 28 年) でも、「芸術系教科・科目においては、子供たちが、世の中にある音楽、美術、工芸、書道等と自分との関わりを築いていくようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これから自

分たちの生活の中で生きてくるという実感をもてるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる」と述べられている。

中学校学習指導要領解説美術編（平成29年7月）では、「感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなど資質・能力を相互に関連させながら育成する事や、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる」とある。

日々の美術の授業の中で、生徒に身に付けさせたい力として、「学んだことが生活や社会の中でどう生きるのか」、「なぜそれを学ぶのか」という視点への意識が明確でなかったことは、前述したとおりである。生徒たちが、これから予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせて未来を生きるために、美術を通して身に付けられる力を更に意識させ、美術を学ぶ楽しさや意義が実感できるよう、授業に改善を図っていくことが求められている。

また、中学校学習指導要領解説美術編（平成29年7月）では、「鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、自分の見方や感じ方を大切にし、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくり出す学習である。」と述べられている。この鑑賞における視点は、表現活動にもつながるものであり、鑑賞と表現を相互に関連させながら指導していくことが、重要である。そして、自分なりの見方や感じ方を基に新しい意味を生成していく鑑賞の学習の実現のためには、言語活動の充実も求められている。言葉を使って自分の考えを整理し、友達の考えを取り入れたり参考にしたりしながら、自分の考え方を更に構築していくことで、互いのよさや個性などを認め尊重し合いながら、自分としての新しい意味や価値をつくりだしていくことができると考えられる。

3 目指す生徒像

以上のことから、目指す生徒像を「造形的な見方・考え方をもち、表現及び鑑賞の活動に取り組むことで、自分としての意味や価値をつくりだし、生活や社会と豊かに関わることができる生徒」とした。造形的な見方・考え方を生徒一人一人がもち、お互いに関わり合いながら言葉で伝え合う活動をする中で、新しい意味や価値が生み出され、その学びを通しての実感こそが、生活や社会へつながっていくものになると期待される。

4 研究主題について

研究主題は、「造形的な見方・考え方を働かせ、自分としての意味や価値をつくりだす指導の工夫」と設定した。

中学校学習指導要領美術編（平成29年7月）において「造形的な見方・考え方」とは、「よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと」とある。表現及び鑑賞の活動を行う際に、美術の学びの根幹にある造形的な見方・考え方を働かせることは、他教科の学びにも通じるものであると考えられる。美術では、一から作りだす活動が多く、全ての選択を自らの判断で行う。多様な答えを追求し創造していく中で「自分としての意味や価値をつくりだす」活動は、美術科としても大切にしていることであり、造形的な見方・考え方を働かせて、自分は何を表したいのかを考え、自分としての新しい意味や価値をつくりだ

すことは、主体的に今の世界を生きようとする姿勢であるといえ、生活や社会と豊かに関わる資質・能力につながるのではないか、と考えた。

そこで、副主題を「生活や社会の中で『つながる』、『生きてくる』ことが実感的に理解できる授業づくり」と設定し、生活や社会と豊かに関わる態度の育成や、よりよい社会づくりにつながる力の育成を目指すこととした。「つながる」とは、学んだことと自分の生活や社会との「つながり」を実感できることであり、「生きてくる」とは、学んだことを活用して人生や社会の中で出会う課題の解決に主体的に「生かしていく」ことと捉え、それらを実感的に理解できる授業づくりを目指すことを研究の目的とした。

II 研究の視点

研究主題に迫るために、次の2点を研究の視点として設定し、実践研究を行う。

1 生徒による相互鑑賞の工夫

「造形的な見方・考え方を働かせ、自分としての意味や価値をつくりだす」活動の実現のための一方策として、表現及び鑑賞の活動の過程に、生徒同士による相互鑑賞を取り入れる。自分一人では気付くことのできない考え方や視野の広がり、気付きの場を設定することは、研究員の日々の実践からも効果的だと考えられる。さらに、「意欲の向上」「自信のなさや消極性の解消」「コミュニケーション能力の向上や他人とは違う個性の尊重」「言葉による新たな意味や価値の生成」等、学びの過程での相互鑑賞という協働学習が、より主体的・対話的で深い学びへつながる効果的な視点であると考えた。

2 生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫

今、授業で学んでいることが、日々の生活や社会の中でどのように「つながる」のか、「生きてくる」のかを実感するという視点を、本研究では意識的に授業の中へ取り入れていく。何をもって生活や社会とのつながりとするか、という解釈も課題となることを踏まえ、各研究員が扱う題材において生活や社会の中で「つながる」、「生きてくる」点を意識した題材設定・場面設定の工夫を行い、実感を伴った授業づくりを目指す。

III 研究の手立て

1 生徒による相互鑑賞の工夫について

(1) 相互鑑賞の際に、生徒に新たな見方や感じ方に気付かせて感じ取ったことや気付いたことを話し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりすることができるよう、「造形的な視点」を意識できるようにする。なぜその作品がよいと思ったか、どの点を工夫すれば更によくなると思ったか、その作品から想起されるものは何か、といったものの捉え方の根本となる見方を、「造形的な視点」で整理しながら捉えさせる。その際には、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える〔共通事項〕ア、そして、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える〔共通事項〕イを意識させるなどの工夫を行い、よさや美しさを感じ取る資質や能力を育てる。また、教師側が願う、「題材を通して育成したい力に沿った視点」も明確に示すことで効果的な相互鑑賞にする。

(2) 「言葉にすることで新しい意味や価値をつくりだす活動」となるよう、ワークシートを工夫する。生徒の中には言葉や文章にすること得意とする生徒もいればそうでない生徒もいる。授業の目的は上手な文章を完成させることではないことを、生徒自身が理解しながら活動できるよう、視点に沿った意見を端的に書けるような工夫や、話し合いの前後の考え方の変容や深まりが分かるような配慮をする。

2 生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫について

(1) 題材を通してどのような力が身に付いたのかを実感できるような場を、題材や生徒の実態に応じて授業の中に設定する。題材自体が生活や社会とつながっているものもあれば、題材を通して育つ力こそが生活や社会の中で生きてくる場合もある。生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような提示を行う際には、題材に応じて適切な場を設定することや、生徒自身が発する言葉やワークシートから取り上げること、発問等の工夫を行っていく。

(2) 「育てたい力」と「活動」を組み合わせた題材名の工夫を行う。生徒が美術の授業を受けながら、意識的に何を学んでいるのかが分かるような仕掛けを設定しておくことも効果的だと考えた。

IV 研究の仮説

相互鑑賞等の活動及び生活や社会の中で「つながる」、「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫をすることで、造形的な見方・考え方を働かせ、自分としての意味や価値をつくり出し、生活や社会と豊かに関わることができる生徒が育成できるであろう。

V 研究の内容

1 基礎研究

先行研究の分析・検討

以下の参考文献から、本研究の裏付けとなる内容を調査・検討し、本研究の根拠とする。

(主な参考文献)

- (1) 「平成 25 年度中学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)
- (2) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」(中央教育審議会答申 平成 28 年)
- (3) 「中学校学習指導要領」(文部科学省 平成 29 年 3 月)
- (4) 「中学校学習指導要領解説 美術編」(文部科学省 平成 29 年 7 月)

2 実践研究

研究主題・仮説に基づいた題材研究、題材開発を行い、前述した手立てを講じた指導方法で授業を実践する。また、検証授業によって、指導方法が有効であったかを検証及び分析し、成果と課題を明らかにする。

※本研究で表記する内容項目番号は、新学習指導要領解説美術編の P51 「教科の目標と学年の目標及び内容構成等の関連」を基に、新学習指導要領の内容項目番号で記載する。

3 研究構想図

平成30年度教育研究員共通テーマ 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

現状と課題

- 「美術の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」「ふだんの生活で美術作品などを進んで見ようしたり、鑑賞したりすることはあるですか」という問い合わせに対する肯定的な回答の割合が低い状況にある。
- 「距離感などのイメージや抽象的なものなど、視覚的に捉えにくいものを、造形的な視点をもって捉えること」、また、「形や色彩の特徴などを基に、分析的に対象のイメージを捉えることや、それらを、根拠を明らかにして説明すること」については課題があると考えられる。

(平成25年学習指導要領実施状況調査)

中学校美術科で求められていること

- 授業で学習したことが、これから自分の生活の中で生きてくるという実感を持てるよう指導の改善・充実を図ること。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」(中央教育審議会答申 平成28年)
- 感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなど資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められる。
- 鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、自分の見方や感じ方を大切にし、知識などを活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす学習である。

「中学校学習指導要領解説 美術編」(文部科学省 平成29年7月)

- 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。

(中学校学習指導要領 平成29年告示 美術 第3指導計画の作成と内容の取扱い(4))



目指す生徒像

造形的な見方・考え方をもち、表現及び鑑賞の活動に取り組むことで、自分としての意味や価値をつくりだし、生活や社会と豊かに関わることができる生徒

研究主題

造形的な見方・考え方を働かせ、自分としての意味や価値をつくりだす指導の工夫 ～生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」ことが実感的に理解できる授業づくり～

造形的な見方・考え方 よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと → (深い学びにつながる)

自分としての意味や価値 自分は何を表したいのか、自らの生きる意味や価値観をもち、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす

生活・社会 生活や社会と豊かに関わる態度の育成・よりよい社会づくりにつながる力

**つながる
生きてくる** 学んだことと自分の生活や社会とのつながりを実感できる
学んだことを活用して人生や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていく

研究の視点①

生徒による相互鑑賞の工夫
(アドバイス交換等・互いを尊重する態度の育成)

手だて①

- ・ 互いに批評し合う際に、「造形的な視点」、「題材を通して育てたい力に沿った視点」を示す。
- ・ 「言葉にすることで新しい意味や価値をつくりだす活動」になるようワークシートを工夫する。
(視点に沿った意見を端的に書ける・話合いの前後での変容や考え方の深まりが分かる。)

研究の視点②

生活や社会の中で「つながる」、「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫

手だて②

- ・ 題材を通してどのような力が付いたのかを実感できるような場を、題材や生徒の実態に応じて授業の中に設定する。
- ・ 「育てたい力」と「活動」を組み合わせた題材名の工夫をする。

仮説

生徒同士の相互鑑賞等の活動及び、生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」ことが実感できるような題材設定・場面設定の工夫をすることで、造形的な見方・考え方を働かせ、自分としての意味や価値をつくり出し、生活や社会と豊かに関わることができる生徒が育成できるであろう。

4 検証授業

[検証授業 1]

1 題材名 未来の私そのための抽象絵画

—自らの見方や感じ方を深めて主題に迫る力—

A表現（1）ア(ア)（2）ア(ア) B鑑賞（1）ア(ア) 対象 第2学年

2 題材の目標 未来の自分の状況や心情を基に主題を生み出し、相互鑑賞を通して、色や形、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫して心豊かに表現する構想を練ること。

3 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 生み出した主題を基に、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり、材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったこと、考えたことなどを形や色彩などの効果を生かし、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題の中心となるものや表す形や色彩などを総合的に考え、材料や用具の特性を生かしながら、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の表現の意図と工夫の違いを感じたり、形や色彩などの特徴や印象などから、見方や感じ方を深めたりしている。

【共通事項】

第2学年及び3学年

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

4 研究主題との関連

	視点	手だて	教師の準備、働きかけ	本時の生徒の具体的な活動
①	生徒による相互鑑賞の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞を行う際は、未来の自分に合う表現ができたか、造形的な視点に基づき、それぞれの造形的な要素を選んだ理由を意識させながら対話をし、振り返る。 ワークシートに対話を記入したものを基に、自らの見方や感じ方を深めたことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4人班で作品について話し合わせ、自分の表現したいことが、よりはつきりしたり、新しく発見したりしたことがあったか問い合わせる。 生徒の変容が見られた作品をプロジェクターで投影し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品について、他の3名の生徒からのコメントをワークシートに記入する。 他の3名の作品について思ったことをコメントする。
②	生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 未来の自分を想像して、どのような抽象絵画を飾りたいかを考えることで自分の生活や美術とのつながりを確認する。 心情や感情等を色や形で表現する面白さを体感させるとともに、色や形が精神面にも影響することに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 未来の自分がどんな感じなのか（何をしているか、どんなことを考えているか等の状況や心情）ということを、意識して表現させる。 どのような気持ちのときに、どんな色や形のものをそばに置いておきたいかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに描いた抽象絵画のアイデアスケッチを、A4のイラストボードに描く。

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容におけるA表現(1)ア(ア)(2)ア(ア)及びB鑑賞(1)ア(ア)に関するものである。題材名を「未来の私のための抽象絵画 - 自らの見方や感じ方を深めて主題に迫る力 - 」とすることで、自分を見つめ、好きなことや好きなもの、考え方、こうなりたいという思い等を基に、強く表したいことを心の中に思い描くことができると思った。第2学年ということもあり、進路指導では将来の自分を意識させる機会が多くなってきた。学校生活の中でも、今の自分と将来の自分を強く意識し始める時期だからこそ、自己の内面に迫り、心情や感情等を色や形で表現する面白さを実感させたい。題材のつながりとしては、1学期に平面のデザインを行い、形や色彩が生活や社会とどのように関連しているのか、どのような影響を与えていたかについて考えた。本題材では、形や色彩の性質からそれらが感情にもたらす効果を実感することにねらいを絞るため、形の単純化や省略、形や色の強調、材料の組合せなどを考え、主題を踏まえ、全体と部分との関係を考えて創造的な構成が工夫できる抽象絵画の表現とした。

(2) 教材観

未来の自分を想像して、自分の部屋などに飾ることを想定した抽象絵画をA4サイズのイラストボードに表現する。イラストボードは描くだけでなく、コラージュのように貼り付ける支持体としても使用できる丈夫なものであり、着彩以外の表現や描画材を重ねても、よれが無く、表現しやすい。また、額縁等に入れずにそのまま壁に飾ったり、棚に置いたりすることもできる。描画材は、イラストボードに色がのりやすく、様々な表現技法を使用した際にも色や形がはっきりと表れるアクリルカラーを使用する。

(3) 教材・用具

【生徒】筆記用具、美術セット

【教師】ワークシート、プロジェクター、デジタルカメラ

【環境】座席：1グループ4人

6 指導計画（5時間扱い）

次	時	○主な学習内容　・生徒の活動	◆指導上の留意点等 ◇教師の支援	【評価規準】 （評価方法）
第1次	1	○ 抽象絵画を鑑賞する。 ・抽象絵画を鑑賞し、印象に残るものをワークシートに記入する。	◆主題を表現することへの意欲をもたせる。(抽象絵画の面白さを意識させる) ◇鑑賞する際の視点として、造形的な視点がどのような感じをつくりだしているかを考えさせる。	【ア】 【エ】 (観察・ワークシート)
	2	○ アイデアスケッチをする。 ・イメージを膨らませて想像したことを基に主題を生み出し、アイデアスケッチで構想を練る。 (白黒でのアイデアスケッチ)	◆発想したことを基に、何パターンもアイデアスケッチをさせ、主題により相応しいものを考えさせる。 ◆相互鑑賞を通して、表現したものに対する自分としての意味や価値を見付けて考えを深めさせる。 ◇自己の表現について、なぜその形、構成等で表現したのかを意識させる。	【イ】 【エ】 (観察・ワークシート)

第 2 次	3 ・ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 抽象絵画を描く。 (3時間) <ul style="list-style-type: none"> ・構想を練った白黒のアイデアスケッチに色を加える。 ・相互鑑賞を通して、表したいことを明確にし、イラストボードに表現をする。 ・自己の表現に迫る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆主題を踏まえ、意図に応じた表現方法を考えさせる。 ◆相互鑑賞を通して、表現したものに対する自分としての意味や価値を見付けて考えを深めさせる。 ◇自己の表現について、なぜその形や色、構成等で表現したのかを意識させる。 ◇相互鑑賞の後は、つくりつくりかえつくることができる自覚させる。 ◆つくりつくりかえつくることができる時間を十分に設定する。 ◇題材を通して、得たことや広がった考え方について意識させる。 	<p>【イ】 【エ】 (観察・ワークシート・イラストボード)</p>
	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を互いに鑑賞し、個々の表現のよさや面白さを味わう。 ・題材を振り返り、自己の変容に気付く。 		<p>【ウ】 (観察・イラストボード) 【エ】 (観察・ワークシート)</p>

《指導にあたって》

(1) 指導の形態

相互鑑賞において、自分のことを話す時間と他の生徒の発言を聞ける時間を考慮し、活発に対話ができる効果を考え、4人で1グループとする。

(2) 指導方法の工夫

- アイデアスケッチの段階と抽象画を描く段階での相互鑑賞を通して、自分としての意味や価値を見付けて考えを深めさせる。
- 色や形、構成を工夫して思いを表現する際に、生徒の実態を踏まえ、最初に形に注目して考えられるように白黒デッサンを行い、次に色彩のバランスに注目して考えられるように白黒デッサンを参考にしながら着彩を行う。
- イラストボードに描く前に、A5サイズのケント紙に描くことで、発想した形と色彩発想や構想した考えを整理して表現できるようにする。

7 本時の指導（3／5時間）

(1) 本時の目標

- ・ 主題を踏まえた抽象絵画を描くために、将来の自分を想像し、感じ取ったことや考えたことを、形や色、構図を意識して、構成を練る。
- ・ 相互鑑賞を通して、表現の工夫や違いから、自らの見方や感じ方を深める。

(2) 本時の展開 めあて 研究の視点

時間	○主な学習内容・生徒の活動	指導上の留意点・配慮事項	【評価規準】 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未来の自分を想像して、どんな抽象絵画を飾りたいか確認する。 <研究の視点②> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・前回の授業でアイデアスケッチを相互鑑賞して、自分としての意味や価値を深めたことを確認させる。 	<input type="text"/> <p>描きたい主題を形や色彩の効果を考えて抽象的に表現しよう。</p>

展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ A5サイズのケント紙に、抽象絵画を描く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10分程度、相互鑑賞を行い、話し合う。 <研究の視点①> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチに色が加わることから、色の感じを意識させる。 ・未来の自分を想像し、生み出した主題を基に表現させる。(どのようなことを、どのような色、形、構図で表現したいのかを意識させる。) ・主題が表現できているかについて、対話しながら振り返る。(造形的な視点を意識させる) <p>発問 「話合いを通して、自分の表現したいことが、よりはつきりしたり、新しく発見したりしたことはありますか。」</p>	<p>【イ】 伝えたい内容について、形や色彩の効果や構成を考えて表現構想を練っている。 (観察・ワークシート)</p> <p>【エ】 色や形、構成等に反映されている思いを感じ取り、自他の表現の違いに気付くとともに、自分としての意味や価値を見付けて考えを深めている。 (ワークシート)</p> <p>【イ】 伝えたい内容について、形や色彩の効果や構成を考えて表現構想を練っている。 (観察・ワークシート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 深まった考えを踏まえ、イラストボードに再び表現する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材を通して学んだことが生活や社会とどのように関係しているのかを考える。 <研究の視点②> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り、次回への課題への見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに次回取り組むことを記入させる。 	

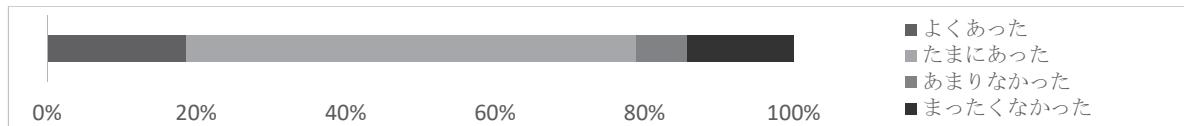
(3) 成果と課題

事前・事後アンケートから研究の視点の検証 (5クラス分を合計して割合を算出)

■事前アンケートA

これまでの授業の表現活動で、自分の考えが深まった経験はありますか。

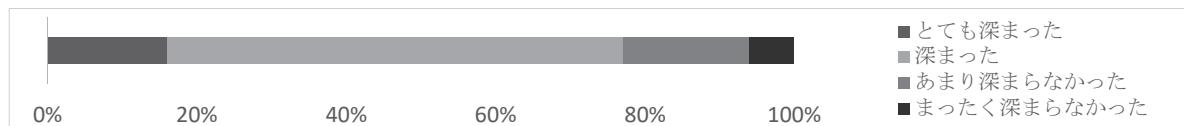
よくあった 19% たまにあった 60% あまりなかった 7% まったくなかった 14%



□事後アンケートA

話合いを通して、自分の表現したいこと（自分としての意味や価値）が深まりましたか。

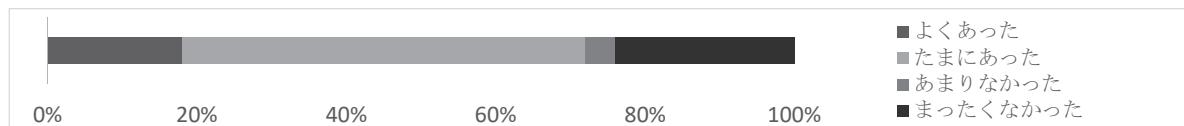
とても深かった 16% 深かった 61% あまり深まらなかった 17% まったく深まらなかった 6%



◆事前アンケートB

これまでの美術の鑑賞活動で新しい発見などはありましたか。

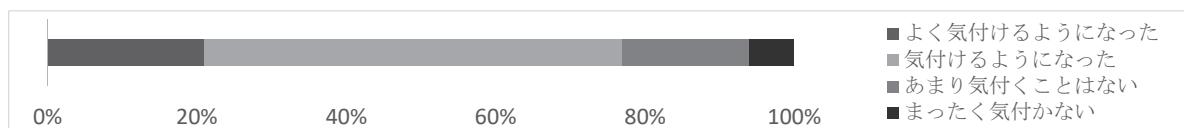
よくあった 18% たまにあった 54% あまりなかった 4% まったくなかった 24%



◇事後アンケートB

抽象的な美に限らず、普段の生活の中「身の回り」の美に気付けるようになりましたか。

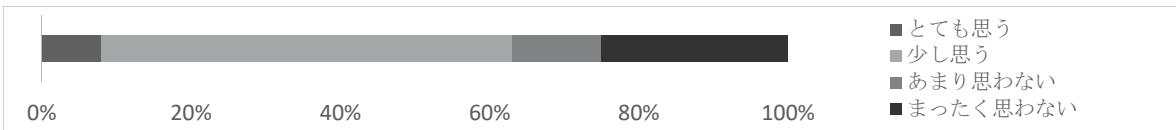
よく気付けるようになった 21% 気付けるようになった 56%
あまり気付くことはない 17% まったく気付かない 6%



●事前アンケートC

美術の授業で伸ばす力は、今後の生活に役に立つと思いますか。

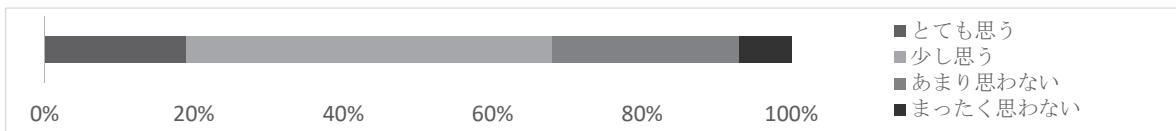
とても思う 8% 少し思う 55% あまり思わない 12% まったく思わない 25%



○事後アンケートC

今回の題材を終えてみて、美術の授業で伸ばす力は、今後の生活に役に立つと思いますか。

とても思う 19% 少し思う 49% あまり思わない 25% まったく思わない 7%



アンケートAでは、研究の視点のうち、相互鑑賞の効果についてのものである。これまでの表現活動において、題材をとおして考えが深まった経験がある生徒が79%であったこと、相互鑑賞をした今回の題材ではほぼ同率の深まったという回答を得た。相互鑑賞が考えを深めやすい手立てであると言える。

アンケートBとCは研究の視点のうち、生活や社会とのつながりについてのものである。アンケートBではこれまでの鑑賞活動で新しい発見があると答えた生徒が62%であったことに対して、今回の題材を終えて、生活の中の美に気付けるようになったと77%となっている。抽象表現を通して、形や色に注目する力が付いている。

アンケートCは、今後の生活で、美術で伸ばした力が役に立つかを質問している。この問に関しては、事前と事後が同じ質問となっている。事前アンケートでは役に立つと思う生徒は63%であったのが、題材を終えて、68%に増加している。また、注目すべきはまったく思わないと答えた生徒が25%から7%に減少したことである。「まったく思わない」が減ったが、「少し思う」まで踏みとどまる生徒も一定数いた。他のアンケート項目との関連を見ていると、これらの生徒は、「相互鑑賞により考えが深まったか」「抽象的な美に限らず、身の回りの美に気付けるようになったか」という項目は「深まった」「気付けるようになった」に○印が付いていた。制作の様子も意欲的に取り組んだり、主体的に自分の考えを伝え、他者の考えも聞いたりしていた。このことからも、今回の題材が、生活や社会とのつながりを感じさせることに効果があったと考えられるとともに、授業中や題材のまとめの際に、題材をとおして気付いたことやできるようになったこと、考えたことは、こういうことに役立つのだと生徒が考えられるような投げ掛けの大切さを実感した。

【生徒の様子】



[検証授業 2]

1 題材名 「今、そこにあるメッセージ」

A表現（1）ア(ア)（2）ア(ア) B鑑賞（1）イ(ア) 対象 第2学年

2 題材の目標

- ・自然や身近な環境にある抽象的事象・事物に目を向けて、造形的な美しさなどに関心をもち、感じとったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、心豊かに表現することができる。
- ・作品の相互鑑賞を通して主題について深く考え、新たな意味や価値を生み出すことで生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めることができる。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
① 自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどに関心をもち、感じ取ったこと、考えたことなどを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとしている。 ② 形や色彩などの特徴や印象、よさや美しさ、表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	① 対象を深く見つめ感じ取った形や色の特徴や美しさ、考えしたことなどを基に、主題を生み出している。	① 表したいイメージをもちながら構図や光の効果を工夫するなどして創造的に表現している。	① 形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 ② 自然や身近な環境の中に見られる形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。

【共通事項】

第2学年及び3学年

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

4 研究主題との関連

	視点	手だて	教師の準備、働きかけ	本時の生徒の具体的な活動
①	生徒による相互鑑賞の工夫	・「造形的な視点」「題材を通して育成したい力に沿った視点」を明確に示す。 ・「言葉にすることで新しい意味や価値をつくり出す活動」になるよう、ワークシートを工夫する。	・表現する際や話合いの際に、視点にするとよい事項を的確に伝える為にパワーポイントを使用し、ワークシートにも視点を明記する等の準備を行う。 ・文章にするのが苦手な生徒でも、視点に沿った意見を端的に書いて話し合いができるようにワークシートを工夫する。また、話し合う前と、話し合った後での考えの変容や広がり、深まりが分かるようなワークシートの工夫を行う。	・造形的な視点を理解して、自分たちや友達の班の作品を鑑賞する。感じたことや考えたことに根拠をもって話し合う。 ・考えたことを言葉にして、その上で友達と話し合う。話合いの前後で考え方があわったり広がったりすることで再度自分の意見を確認し、新しい意味や価値をつくり出す活動を行う。

②	生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・題材を通してどのような力が付いたのかを実感できるような場を、題材や生徒の実態に応じて授業の中に設定する。 ・「育てたい力」と「活動」を組み合わせた題材名の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「普段何気なく目にしているものでも、見方や感じ方が変われば価値のあるものになる」「生活の中の美しいものや心を動かされるような面白いものを発見することの喜びが、ものを生み出す原動力になることや、美術作品を鑑賞する新しい視点になる」ことが分かる説明をまとめの際に行う。 ・普段の生活の中に、美しさや創造のになる事柄が存在するということが意識でき、形や色に込められたメッセージを感じとり、また、形や色にメッセージを込めて表現することの楽しさが実感できる抽象画の面白さを意識できるような題材名にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞を通して、普段何気なく過ごしている場所やものにも面白さや美しさがあることに気づき、題名や主題を考えながら新しい意味や価値づくりを行う。
---	--	---	--	--

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領A表現（1）ア(ア)（2）ア(ア)B鑑賞（1）イ(ア)に関する内容を受け、普段生活している身近なところにある抽象的事物・事象に目を向けて、そこにある美しさや面白さなどを感じ取って作品にすること、そして作品として表現されたものについて言葉にして伝え合うことで、ものの見方・感じ方を深め、新しい意味や価値をつくり出すことを目標としている。

年間指導計画のなかで2年生は、自分が表したい人物像を、創造的に立体で表現してほしいという思いから、1学期は紙粘土による立体表現を行った。2学期は、抽象的な思考が育つ時期であることも考慮して、自分の気持ちを抽象で表す課題に取り組んでいる。「写実的に描きたい」という欲求が高まる反面、技術が追い付かず表現することをためらう時期もある。この時期に絵画表現の可能性を、抽象表現から広げる経験は、自己の思いや願いを表現するために有効であると考えた。

現在、「喜怒哀楽」といった感情から想起される自分の思い描く抽象的なイメージを、色と形でアイデアスケッチし、その後ダンボールを用いた半立体での表現する活動をしている。自己の表現を模索する中で、本題材を取り入れて抽象表現についての更に新しいものの見方や発見を重ねることは、本題材を取り入れることで、今後の自らの生活や表現に、新しいものの見方や考え方、表現の仕方が更に加わり、創造的に新たな意味や価値を見出すために有効であると考えた。

本題材では、1時間目に校舎内にある抽象的な事象や事物に着目し、4人班でのタブレット撮影を行う。色や形、光の効果や構図等を考えながら抽象画の撮影を行い、普段は気付くことのないよさや美しさ、面白さを発見して欲しいと考えた。2時間目には、印刷された画像の作品を見ながら、色や形、光の効果や構図などから題名と主題を考えて、抽象

画作品の見方や感じ方を深める時間とする。3時間目は、自分たちの班だけでなく他の班の作品を鑑賞し、見方や感じ方をさらに深め、新しい意味や価値を生み出しながら美術の働きを感じ考えられる時間としたい。

(2) 教材観

本校には昨年度、生徒用に40台のタブレットが設置され、各教科や行事の事前学習などで活用されている。また、各家庭にもスマートフォンやデジタルカメラ、タブレット等のカメラを使用して家族や友人、料理や趣味のもの、風景を撮影することは生徒たちにとって親しみやすく、日常のものとなっている。事前アンケートでは、94.8%の生徒が写真を撮影する媒体を持っているという結果が出た。そして、日頃からゲーム等を操作している生徒も多いため、機器の操作については教員以上の知識をもつ生徒もいる。今回は、タブレットのカメラ機能を活用し、いつもと違う視点をもって、身の周りの時物や風景を捉えて抽象画を見付け出し、光の効果や構図を練りながら撮影することでの表現活動を行う。普段の活動と違って、よいと思った風景や事物を一瞬で切り取り表現できることの写真表現のよさや面白さを感じながら、何度も繰り返し撮影しながら最良な表現を見出す難しさ等も4人班で見いだしてほしいと考える。また、撮影した作品をじっくり鑑賞し、題名や主題を考える中で、言葉による活動がさらに作品に新しい意味や価値を生み出す経験をしてほしいと考えた。相互鑑賞をする中で、他の班の表現にも関心をもち、作品を意味をもって味わう機会としていきたい。さらには抽象的な芸術作品への見方や感じ方を深めるとともに、現在並行して美術の授業で行っている自分自身の抽象表現にもつなげていってほしいと考えた。

(3) 教材・教具

【生徒】筆記用具、美術ファイル、4人班に1台タブレット

【教師】ワークシート、パワーポイント資料、作品（印刷）、ホワイトボード

【環境】教室で行う。（大型モニターの使用、4人組の話し合いを考慮して）

6 指導計画（3時間扱い） めあて… [] 、研究の視点との関連… []

次	時	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 （評価方法）
第1次	1	<p style="text-align: center;">校舎内にある「抽象画」を発見しよう。</p> <p>○ 学校内の自然や事物に着目して、抽象的事象や事物を発見し、「抽象画」として表現する。</p> <ul style="list-style-type: none">• 4人班で1台のタブレットを用いる。• 班会議を行い、時間内にどこを周るか話し合う。• 校舎内を周り、タブレットで撮影する。1人1枚以上は撮影する。• 教室に戻ってきて、班員とともに1枚の抽象画を選択する。	<p>◆抽象表現についての確認を行う際、既習事項を基に作品を見せながら的確に伝える。</p> <p>◆タブレットで撮影する際に、色彩や形、構図や光の効果等の美しさなど、追求し工夫できるポイントを示す。</p> <p style="text-align: right;">◇撮影のポイントを意識できるように、ワークシートの項目に注目させる。</p> <p>◇生徒が活動中に気になったことを教師に聞く場合は西玄関に来るように伝えつつ、適宜巡回指導も行う。全員が撮影できること、抽象画であること、時間を意識できるよう声掛けをする。</p> <p style="text-align: right;"><研究の視点①></p>	<p>【アー①】 【イー①】 【ウー①】 (観察) (ワークシート)</p>

第 2 次	2	「抽象画」の題名と主題を考えよう。	<p>◇主題の意味が分かるよう、様々な作品を示しながら主題についての説明を行う。 ◆主題を考える際、根拠となる色、形、光、構図などにも言及するよう促す。<研究の視点①></p> <p>◇ヒントとなる単語や文章を箇条書きで紙に自由に書けるようにする。</p>	【ア-①】 【イ-①】 【ウ-①】 (観察) (ワークシート)
		各班が表現した「抽象画」を味わおう。		
第 3 次	3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班会議を行い、自分たちの作品の題名と主題を決定する。 ○ 他の班の作品の相互鑑賞を行う。 ○ クラス全体で、作品発表会を行う。 ○ 題材を振り返り、学ぶ前と後とでは、見方や考え方がどのように変化したか、また、題材をとおしてどのようなことが身に付いたかを考える。 	<p>◇相互鑑賞には、印刷した画像での作品とともに、パワーポイントでも作品提示を行い、視覚的にも皆で作品を共有できるよう配慮する。</p> <p>◆多様な価値観をもって批評し合えるよう、鑑賞するポイントである造形的な視点を示す。<研究の視点①></p> <p>◆身のまわりにある抽象的な事物・事象の見方・感じ方を深めることは、自分の生活や人生を美しく豊かにする美術の働きであることを示す。<研究の視点②></p>	【ア-②】 (観察) (ワークシート) 【エ-①②】 (観察) (ワークシート)

7 本時の指導（3／3時間）

(1) 本時の目標

- ・ 各班が表現した抽象画作品について、題名や主題を考えながら、作品のよさや面白さを味わう。
- ・ 生活の中にあるもので、視点を変えれば美しいものや面白いものがあり、対象の見方や考え方を深めることは、生活や人生を美しく豊かにする美術の働きであることを知る。

(2) 本時の展開 めあて…□、研究の視点との関連…□

時間	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 (評価方法)
導入 10 分	各班が表現した「抽象画」を味わおう。	<p>◆自分たちの考えの根拠となる色、形、光、構図などを意識した主題になっていふか声掛けをする。</p> <p>◆色や形など、考えの基になる根拠が説明できるような発表原稿を工夫し、ワークシートに載せておく。</p>	【ア-②】 (観察) (ワークシート)
展開 ① 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回班ごとに撮影した抽象画作品の相互鑑賞を行うことを理解する。 ○ 班会議を行い、自分たちの班の題名と主題を最終決定させて所定の用紙に書く。 	<p>◇ 班の中の役割分担を明確にし、スムーズな話し合いになるよう配慮する。</p> <p>◆鑑賞のポイントを念頭において相互鑑賞ができるよう、造形的な視点を考えられるような工夫をワークシートに行う。</p>	【エ-①】 (観察) (ワークシート)
展開 ③ 20 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4人班で、作品を移動して相互鑑賞を行う。まずは作品をみて自分の考えをまとめた上で、4人班での話し合いを行う。考えをホワイトボードにまとめる。 ○ 全体で、各班の作品発表会を行う。まずは作品について、他の班が相互鑑賞で出た考えを発表する。その後、作品を表現した班が題名と主題について説明を行う。 ○ 見方や視点を変えると普段何気なく生活している中にも発想の 	<p>◆印刷した画像とパワーポイントで、各班の作品を提示しながら発表する。</p> <p>◆相互鑑賞で出た考えも尊重しながら、作品に対する見方、考え方を深められるような言葉掛けをする。</p> <p>◆身のまわりにある抽象的な事物・事象の見方・感じ方を深めることは、自分</p>	【エ-②】 (観察)

まと め 10 分	ポイントや面白さがあり、その見方や感じ方を深めることは、自分の生活や人生を豊かにすることだと気付く。	の生活や人生を美しく豊かにする美術の働きであることを示す。 ＜研究の視点②＞	(ワークシート)
--------------------	--	---	----------

(3) ワークシート

『今、そこにあるメッセージ』 2年 組 姓氏名

皆さんが表現した「抽象画」作品を味わおう。

1. 抽象語

①最初の見方を決める。

A 発表者1 さん 自分の絵の発表をせん。

B 発表者2 さん 他の絵の発表をする人。

C 連絡網 さん 紙やホワイトボード、ペンを運ぶ人。片付けをする人。

D ■記 さん 著者と主題を運ぶ人。ホワイトボードに意見を書く人。

②自分たちの他の発表者情報を書きよう。＊発表者の前に合わせて順序を決めて下さい。

私たち（ ）はこの作品を運ぶ人です。運営者は（ ）です。

運営したのは（ ）です。

この作品のよいところは（ ）です。

色彩、光の動き、構図などのよいところを教えてください。

全体のイメージとしては、（ ）みたいです。

なので、題名は（ ）としました。

主題は（ ）です。

＊運営の人は、題名と主題を運んでください。

2. 相互鑑賞 他の組の作品を鑑賞しよう。

＊鑑賞のポイント（運営してみてほしいところ）

【形】（形の位置／入り口、四隅など）どういる、長い短い等）、形が物語にもたらす効果を確認する。【色彩】（色彩の組合せ、色の濃さ、明るさなど）どういった色彩の組合せでもたらす効果を含みます。【光】（光の強さ、光の品味での背景の印象を含みます。）【構図】（構図的に表現するのに、画面にどのようにおさめたのか。）【運び】（筆触や色彩などを使って運営するか、全般的に運営するのか。）【全体のイメージ】（具体的なイメージを運営して、何でに見立てたり心情などと関連付けてみる。）

③まずは、作品をよく見て自分の考え方を書こう。

（ ）組の作品のよいところは（ ）です。

色彩、光の動き、構図などのよいところを書いてください。

全体のイメージとしては、（ ）みたいに見えます。

なので、主題は（ ）だと思います。

④相手で相互鑑賞を行って、ホワイトボードに題名と主題を予想してまとめよう。

【題名の運営】では、これが、どちらのものは、オハツキ書き入れておいてください。

(4) 作品例

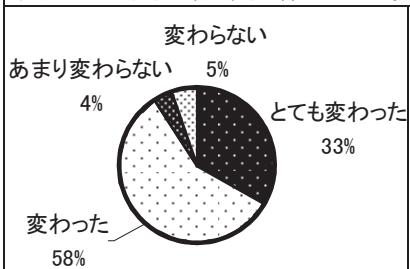


(5) 成果と課題

検証：授業学習シートの結果比較

【抽象画作品の見方について】

問1 ◆写真の抽象画作品を鑑賞したことで、抽象画の見方は変わったか。



「とても変わった」「変わった」を合計すると、91%の生徒が抽象画の見方が変わったと感じていることが分かる。生徒の意見からも、学習する前と後では、抽象画の見方や感じ方、制作意図の読み取り等、抽象画の印象が前向きなものと変化している。(A)

また、授業の中やワークシートに、造形的な視点を表現や鑑賞のポイントとして具体的に示したことで、色づかいや形、光、全体のイメージ等にも着目しながら抽象画を鑑賞していたことが分かる。(B)

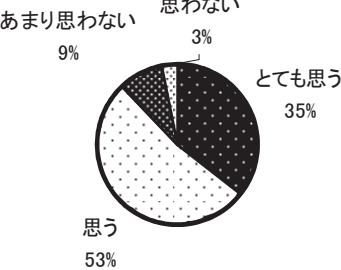
「特に何も感じない」といった率直な意見等も尊重し、今後の様々な課題におけるみとりや変容を大切にしたい。(C)

生徒の意見 ○：「とても変わった」「変わった」 ●：「あまり変わらない」「変わらない」

- 今までではどんなものを描いているか全然分からなかったが、どういうことを表現したいのか少し分かるようになった。
- 僕は具象画が好きだったが、見方によれば抽象画の方が好きです。
- 学習する前までは「誰でも描けそう」と思っていましたが、鑑賞して作品の感情などを考えるようになったからです。
- 抽象画は具象画より難しいものだと思っていたけど、自分にとつてみて身近にあるものだなと思った。
- これは何を表しているのだろう、と考えるようになった。
- 以前は抽象的な物を見ても何も感じなかったが、今は面白いと思う。
- 前まではグチャッとしたものだと思っていたけど、繊細なものに見えた。
- 明るさだったり配色だったり、一つ一つ気にしてみるようになった。
- 光や影の入り方で写真が抽象画になったから。
- 色使いや光の取り入れ方等技法をより見るようになった。
- 水道の蛇口の水が出るところの模様など意外なものが抽象画になる。
- 具象画と違ってその人の個性が出るため、意味が分かりやすい。
- これから見していくであろう色々な物に対しても考え方や見方が変わった。
- 一つのものや風景で、色々な見方ができる面白い。
- 写真の抽象画はすごいと思うものが多くたけど、絵の方はまだよく分からない。
- 特に何も感じない。
- ほとんど美術館に行かないから。

【研究の視点①】 生徒による相互鑑賞の工夫

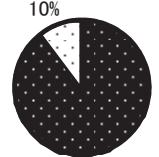
問2 ◆写真の抽象画作品について、班で話合いをすることで、自分の考えが広がったり、深またりしたと思うか。

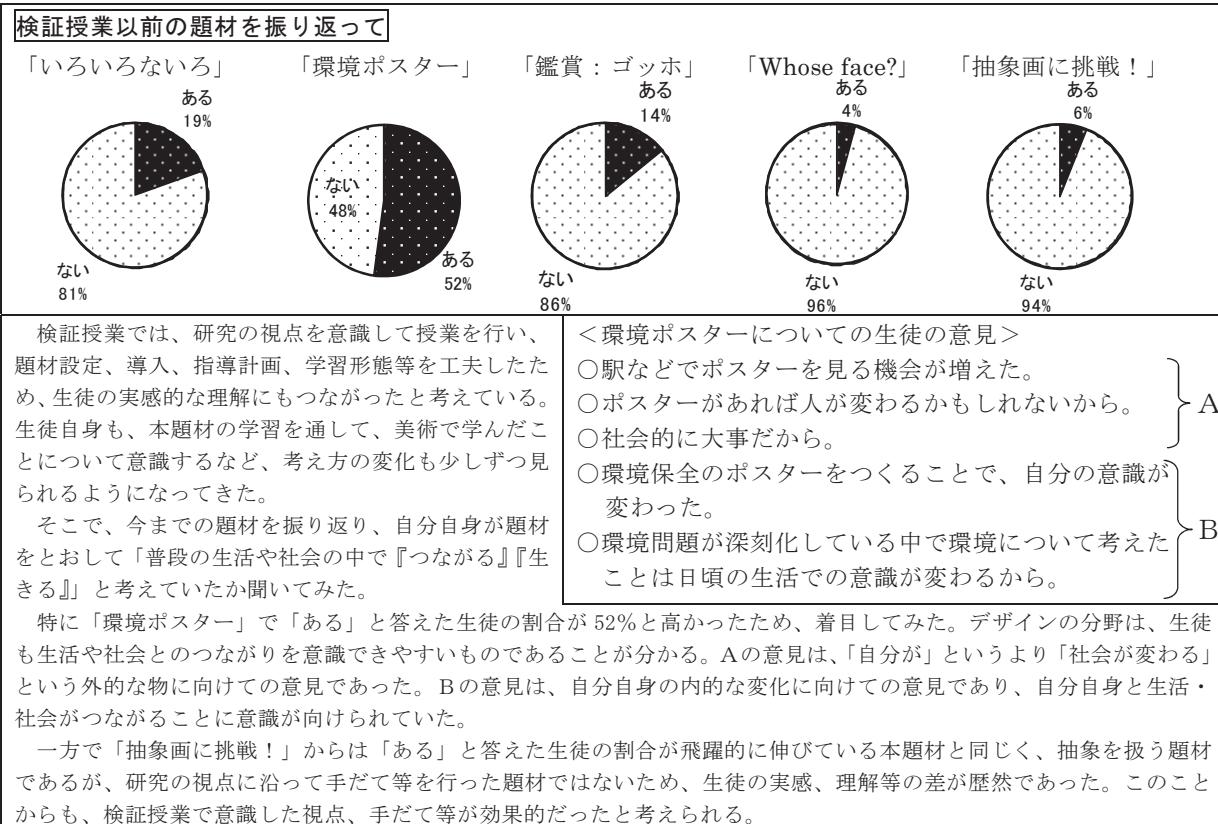
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても思う</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>思う</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>あまり思わない</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>思わない</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>「とても思う」「思う」を合計すると、88%の生徒が相互鑑賞によって、自分の考えが広がり深まったと感じている。Aの意見からは、様々な意見を聞くことで、多角的な意見を参考にし、新しい考え方を見いだせたことが分かる。</p> <p>Bのように、4人組の話合いがうまくかない要因としては、自分の考えを表明するのが苦手、考えが出ない、リーダー的存在の生徒がない等が考えられる。話合いの内容の改善・工夫（スマーレスステップから等）や座席の配慮が必要である。</p>	Response	Percentage	とても思う	35%	思う	53%	あまり思わない	9%	思わない	3%	<p><u>生徒の意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○：「とても思う」「思う」 ●：「あまり思わない」「思わない」 ○自分では気付いていなかった部分が友達には見えていたから。 ○色々な人の意見を聞いてなるほど、と思えたから。 ○一つの絵から、たくさんのが考えられるというのが分かったから。 ○人によって全然考えが違うから自分と別の角度で考える人の考え方とか参考になった。 ○みんなの意見を聞いて新しいことを考えられるようになったから。 ○考えて人に話す力にもなった。 ○一人一人の意見が違うので、そういう見方もあるのだなと思えるから。 ○自分では思っていなかった意見が出て、違う観点からも見られるようになった。 ○いろいろ鑑賞することで細かいところまで見付けられたから。 ○私が感じたものとは異なった考え方をしていて、視野が広がった。 ○多角度からの意見が多く、刺激を受けたから。 ○班のみんながいい意見をたくさん出してくれたから。 <p>●あまり意見が出なかった。</p> <p>●話し合いがうまくいかなかった。（2名）</p> <p>●抽象画をうまく説明することは難しいから。</p> <p>●話し合っていると自分の考えと混じって分からなくなるから。</p>
Response	Percentage										
とても思う	35%										
思う	53%										
あまり思わない	9%										
思わない	3%										

【研究の視点②】

生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫

問3 ◆美術の授業において、普段の生活や社会の中で「つながる」と感じられたものはあるか。

<p>本題材</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ない</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>ある</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table> <p>「ある」と答えた生徒の割合は90%であった。Aの意見では、普段の生活の中で見方や感じ方を変えると、ものの色や形の面白さに気付き、生活を楽しくすることにつながると感じていた。</p> <p>Bの意見はさらに、身の回りにある物や建造物のデザイン等が自分の生活を楽しくすること、そして「思考すること（過程）自体が生きる」と挙げる生徒もいた。</p> <p>そして「つながる」「生きてくる」と実感できるものがない、という生徒の意見からは（C）、普段周りにあるものが抽象的な物に見立てられるかどうかという視点で「ない」と考えていることがわかる。本授業を行った、抽象画の見方や考え方自体は自分の生活につながることを、ほぼ全員の生徒が実感できたと考えら、題材設定の工夫が効果的であったことが分かった。</p>	Response	Percentage	ない	10%	ある	90%	<p>○普段の生活の中にあるものを抽象画として見られるようになったから。</p> <p>○いろいろなところに抽象画があると思うと、世界が明るく見える。</p> <p>○普通の生活をしていても、日常が少し面白くなると思ったからです。</p> <p>○普段の何気ない写真や絵でも、誰がどう思ってそれをつくったのかを考えるとおもしろくなるから。</p> <p>○ぱっと見るのとじっくり見るのでは、感じることが変わると分かった。</p> <p>○視点を変える、やわらかく考えることが必要な場面があると思ったから。</p> <p>○見方が違っても思考は似ていたり、共通な場所が見つかると「つながる」と思いました。</p> <p>○何気ないビルの色や服のデザインを自分の考え方から、色々な、その物に込められた制作者の思いを読み取れるから。</p> <p>○普段の服装や絵などを見て色々なものが想像できて、生活が楽しく感じられるようになると思ったからです。</p> <p>○店の看板や商品のデザインなど、この学習をして見方が色々変わりました。デザインに込められている工夫などを考えていきたい。</p> <p>○美術だけというより全てにおいてですが、様々な人の考え方を知ることは、自分の固定的な考え方を広げができる、ということは社会性を身に付けることができると思うからです。</p> <p>●友達の意見を聞いて違う意見もあるのだと思ったが、生活に結び付くとは思わない。</p> <p>●普段、抽象画を見るような見方・考え方をあまり使うことはない。</p> <p>●例えば教室にあるような物は、そのものとして（ロッカー、黒板、机など）見るから。（D）</p>
Response	Percentage						
ない	10%						
ある	90%						



今回の検証授業は、抽象的な表現に着目し、写真撮影による表現及び鑑賞活動を行ったことで、「抽象画の見方・感じ方」、「相互鑑賞で得られたより多角的なものの見方・捉え方は、自分の考えを広げ深めることにつながる」という結論にも結び付いた。

「美術で学んだものの見方・感じ方が、私たちの生活や社会をより楽しく豊かにする」という点については、すぐに結び付く生徒と今までの美術についての印象からすぐに結び付かない生徒もいることが分かった。そのため、指導の中で漠然と「美術で学んだことが『生活』や『社会』とつながっている、生きてくる」と振り返るのではなく、「この題材で気付いた〇〇〇のこと」「考えたり、感じたりした〇〇〇のこと」等が、「『生活』や『社会』の中の〇〇〇のことなどにつながっている」と生徒が具体的に意識できるようにすることが大切だと感じた。

美術の授業で学んでいることは、生徒自身が日々の生活で楽しみにしていることや好きなもの、美しいものにつながっているのだと実感できる授業展開を、題材に合わせて立案することの大切さを実感した。

(5) 作品例



題名：黒い太陽
主題：いつもみんな照らしている太陽がないと生きていけない。それと同様に目立たなくとも太陽のように人々を支えている存在。



題名：「BAD END の先にあるもの」
主題：全体的に暗く、傘が入り組んでいる様子。暗くて先が見えないさましさがあるものの、必ず希望みたいなものは待ち受けている。



題名：「秋雨」
主題：色がたくさんあってにぎやかな感じはするけど、形はちぎられた感じで切ない。雨にぬれた感じのしなりした感じも切ない。

[検証授業3]

1 題材名 木彫鏡 ～木のぬくもりを感じながら、愛着について考えよう～
 A表現(1)イ(ウ)(2)ア(イ) B鑑賞(1)イ(ア) 対象 第1学年

2 題材の目標

使用場面や使う人のことを考えて構想し、木に適した加工方法の基本を学び、手鏡という普段から使用できる道具を作ることによって、日常生活の中にあるデザインについての理解を深める。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
① 題材の目的を理解し、構成や装飾を考えて表現することに 관심をもち、主体的に構想を練ろうとしている。 ② 日常生活にあるデザインされたものについて、暮らしへの影響を主体的に考えている。	① 使用場面や使用する者の気持ち、与えられた板の大きさや素材感を考慮しながら、使いやすいデザインを考えている。 ② 表現したいイメージに沿った配色の構想を練っている。	① 材料や糸鋸、彫刻刀等の用具の特性などから制作の順序を考え、正しく用いながら、自分の表したい形を見通しをもって表現している。	① 他の生徒の考えに触れ、作品の魅力を感じ取り、自分の制作に活かそうとしている。 ② 身の回りにあるデザインに目を向け、そのよさを理解し、自分の制作に活かそうとしている。

【共通事項】

第1学年

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

4 研究主題との関連

視点	手だて	教師の準備、働きかけ	本時の生徒の具体的な活動
① 生徒による相互鑑賞の工夫	・愛着が湧くデザインという視点で、互いに作品・プレゼンシートを鑑賞し合う。	・糸鋸、小刀、紙ヤスリを活用して、うまく木の滑らかさを出せているか、形や木の表情等、表したい思いが伝わるデザインになっているかを意識させる。	・制作途中の作品・自分の思う愛着の湧くデザインを互いに鑑賞し合い、造形的な視点で感想・アドバイスの交換を行う。
② 生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定・場面設定の工夫	・身の周りにある様々な道具やデザインを造形的な視点で見直し、そのよさや美しさについて理解を深める。	・様々な身の周りにある道具を紹介し、生徒が形から魅力を具体的に紹介できるようにする。 ・自分の制作した木彫鏡を、生活の中で使用している状況を想像させる。	・プレゼンシートを基に、身の周りにあるデザインについて見直し、造形的な見方・考え方を働かせ、具体的な文章で紹介し合う。

5 指導観

(1) 題材観

木材は建築や家具、食器などの素材として日本人の生活と密接に関わってきた素材である。使うほどに風合いも出てきて、愛着も湧いてくるものだと考える。しかしながら現在は安価なプラスチック素材や使い捨ての生活用品などがあふれ、素材の魅力を味わうことも、物に愛着を持って大切にする意識も薄れてしまっているよ

うにも感じられる。そこで今回は普段身の回りにある物についての関心を高め、愛着の湧くデザインについて考える機会とした。

第1次では2段階のワークシートで入念に構想を練り、第2次では実際に木を切り出して加工し、着色する。第3次では制作途中の作品を相互鑑賞して、アドバイス交換を行う。また、それぞれの思う愛着の湧くデザインを持ち寄り相互鑑賞して、物に対する考えを深める。第4次ではそれぞれの活動によって深まった考えを自分の作品に反映・完成させる。

今後、生徒が物を作ること、大切にすることを通して、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会とより豊かにかかわり、一人一人が自分らしく、豊かな人生を歩んでくれることを願う。

(2) 教材観

自分がイメージする形を作り、手になじむように小刀で角を落とし、やすりで手になじむように加工し、日常的に使う道具を作成する際、加工のしやすさや手のなじみ等から木材を選ぶこととした。また、日頃よく使うもので、「自分を映す」という意味のある鏡を選ぶことで、思いや愛着について意識しやすくなると考えた。

愛着の湧くデザインについて考える際に、日常生活を見つめる機会を設け、そこで造形的な視点で改めて考えさせることで、価値の発見、創造、新たな知識の習得につながるのではないか、また、それぞれの発見や習得した知識を互いに交流させることで、自分が見いだした価値を再確認したり、他者の考えを理解したりすることでものの見方や考え方の多様性の面白さに気付くことができるのではないかと考えた。

(3) 教材・用具

【生徒】筆記用具、教科書

【教師】教科書、プレゼンシート、ワークシート、糸鋸、小刀、紙やすり、棒ヤスリ

6 指導計画（12時間扱い）

次	時	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 (評価方法)
第1次	1 ～ 3	○ 構想を練る ・アイディアを練り、自分の形を決める。	◆アイディアを2段階で考えさせる。 6種類の案の中から一つ選び、实物大で下書きして、形を整えるように指導する。 ◇採用しない案の意義も言及する。	【ア-①】 【イ-①】 (ワークシート)
第2次	4 ～ 6	○ 制作 ・カーボン紙を用いて板にデザインをトレースし、糸ノコギリで切り出した後、小刀、やすりで形を整えて着色	◆切り出した板材の角面を小刀で丸く整え、ヤスリで手になじむように加工するよう指導する。色は重ねて深みを出させる。 ◇なめらかに加工した木材を触らせて完成のイメージをもたせる。	【ア-①】 【イ-②】 【ウ-①】 (作品)
第3次	7 ～ 8 本時	○ 途中相互鑑賞① ・互いの作品を鑑賞し合い、感想やアドバイスの交換を行う。 ○ 相互鑑賞② ・愛着を持つことのできるデザインについて改めて考えを深める。	◆造形的な視点を示して、ワークシートに感想を記入させる。 ◇お互いに制作意欲が高まるようなメッセージを考え、記入するように指導する。 ◆茶碗などの具体例を挙げて、普段身の回りにある道具に興味関心をもたせ、新たな視点で物事を考えさせる。	【ア-①】 【エ-①②】 (ワークシート)

第 4 次	9 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 修正・仕上げ <ul style="list-style-type: none"> ・2回の相互鑑賞により、美術作品に対する考え方を深め、制作に活かして作品を完成させる。 ・まとめプリント記入 	<ul style="list-style-type: none"> ◆前時までの自分の気付きを振り返り、制作に活かす様に指導し、まとめを行う。 ◇進度の遅い生徒への支援 ◇早く完成させた生徒には更なる工夫を提案する。 	【ア-②】 (プリント)

7 本時の指導（8／12時間）

(1) 本時の目標

- ・いろいろな意見を聞きながら愛着についての考え方を深め、今後の生活・制作に活かす。

(2) 本時の展開 めあて… [] 、研究の視点との関連… []

時間	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 (評価方法)
導入 18 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ クロッキーを行う。 【15分】 ○ プレゼンシートの相互鑑賞について理解する。 【3分】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆15分を目安に完成させるようにする。(ものをみつめる力、表す力を身に付けることができるよう通年で取り組んでいること) <p>[] それぞれの愛着の湧くデザインを鑑賞し、よさを理解して制作に生かそう。</p>	
展開 22 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互鑑賞を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートとプレゼンシート（持ってきた人は実物）をセットにして隣の人に渡す。渡された人は鑑賞して感想や質問を記入して次の人に渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆見る人に魅力が伝わるように、造形的な視点をワークシートに記入させておく。（事前課題・宿題） ◇プレゼンシートの鑑賞を通して、そのデザインに愛着をもっている生徒の考え方や思いを読み取るように声を掛ける。 ◆言葉にすることで新しい意味や価値をつくりだす活動にする。 	【エ-②】 (ワークシート、プレゼンシート)
まとめ 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互鑑賞を受けて・感想記入・今後の生活・制作(仕上げに向けて)について考える ～これから木彫鏡制作で意識したいこと～ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たな視点(造形的な視点)で見つめ直すことで、普段の生活の中にも様々な「美」があり、美術の授業で学んだことが生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感させるまとめにする。 	【ア-②】 (ワークシート)

(3) 成果と課題

【事前・事後アンケート：普段の生活の中の愛着の湧くデザインや道具についての意識】

- ① <事前> 普段の生活の中の愛着の湧くデザインや道具について、考えることがある。
- ・ はい 5% いいえ 95%

いいえ

【生徒コメント】

- ・拡散されている画像やどんな人も知っているような絵画などを見たときに考える。

- <事後> 普段の生活の中の愛着の湧くデザインや道具について、考えが深まった。

- ・ はい 37% いいえ 58% 無回答 5%

無回答

はい

いいえ

【生徒コメント】

- ・どのようなものに愛着が湧くのか分かった。
- ・使えば使うほど、味も出て、愛着も湧いてくると思った。
- ・大切に使った方がいい。
- ・どのようなデザインや手ざわりなどで愛着が湧くのか分かった。
- ・デザイン・使いやすさ＝愛着ではないとも考える。

<アンケート1から>

授業前は生活の中の愛着の湧くデザインについて考えることがほとんどなかった生徒達も、今回の授業の中で、互いの作品や、愛着の湧くデザインを相互鑑賞したことにより、それぞれが自分なりに形に込められた思いを考え、デザインについて理解することができていた。アンケートの問い合わせとして、事前アンケートでは「考えることがあるか」に対し、事後アンケートでは「考えが深まったか」と問うたことにより、「深まったか」という言葉の捉え方の違いで「はい」が増えたものの「いいえ」も一定数残る結果となった。

個別で話を聞いてみたところ、「考えることが無かった」ことに対し「考えるようになつた」という実感は多くの生徒がもっていることが分かった。生徒から、「形や色彩の特徴などを基に、分析的に対象のイメージを捉えることや、それらを、根拠を明らかにして説明することを通して、考えが深まったと実感した。」という話もあった。

コメントの中にある、「デザイン・使いやすさ＝愛着ではない」という言葉は、デザイン・使いやすさは制作者が使う人のことを考えている考え方であり、愛着は使う人が使い続けていくことで生まれてくる考え方であるということを生徒が題材をとおして理解したことが分かる。また、「使えば使うほど、味も出て、愛着もわいてくる」という言葉に、愛着という言葉の意味を改めて認識させられ、「ものを大切に使った方がいい」という言葉からは授業の根底にあるねらいが生徒に伝わっていることが確認できた。

[2]<事前> 相互鑑賞の時、自分の言葉で、他人の作品の感想をコメントや文等で表現することができますか。

- ・できた 28% • だいたいできた 57%
- あまりできなかつた 10%
- できなかつた 5%



<事後> 他の人のワークシートに、自分の言葉で、自分の感想を記入することができましたか。

- ・できた 37% • だいたいできた 63%
- あまりできなかつた 0 %
- できなかつた 0 %



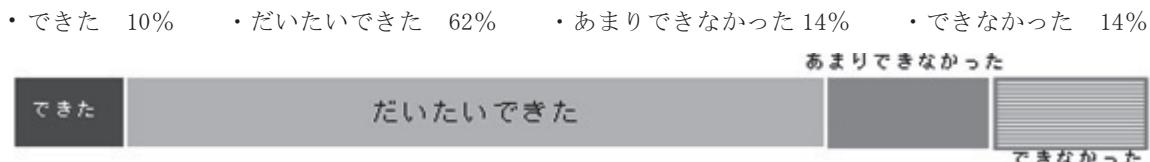
<アンケート2から>

研究員として研究をする前から、自分なりに相互鑑賞を意識した授業を展開してきたこともあり、相互鑑賞の場面で「自分の言葉で、他人の作品の感想をコメントや文等で表現することができたか」という項目について肯定的な回答をした生徒は85%であった。

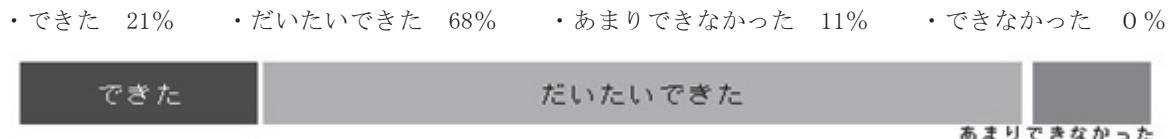
しかし、研究員として相互鑑賞の在り方を再度見直し、工夫をすることで検証授業の後には肯定的な回答をした生徒が100%になり、「あまりできなかった」「できなかった」と答えた生徒は0%であった。

他人の作品を見る際、どのように見ればよいのか、また、感じたことをどのように伝えると相手にとって参考になるのかなどについて迷ってしまい、思考が進まない、深まらないという生徒の姿があったが、互いに見合う際の視点を示すことで、見て考える際の手掛けとなりとなったことが分かった。

3 <事前> 相互鑑賞の時、自分の言葉で自分の作品や全体の感想をコメントや文等で表現することができましたか。



<事後> 自分のプレゼンシートやワークシートに、自分の言葉で思いを表現することができましたか。



<アンケート3から>

制作をする中で、様々な思いをもち、考えながら形を整えているため、感想やコメント等、言葉で表現する際に「表現しきれているか」と考えると、まだ表現し足りないと感じる生徒もいた。そのような場合は、個別に声を掛け、どのようなことを感じていたのか等を聞くと、思いや考えはあることが分かった。聞く際には、相互鑑賞の際に示した視点の言い方を変えながら聞くことで、生徒も考えが徐々に整理できてきた様子であった。

美術の授業であるため、思いや考えることを重視した振り返りではなく、書かせることが目的となってしまわないように気を付けることは当然であるが、言語化を意識させることで自分との対話が深まり、考えを整理することにもつながると考える。他教科との学びの連携を意識することの大切さを実感した。

ワークシート

<p>(1) ワークシート</p> <p style="text-align: right;">第1回年 美術 愛着書 p.28 木のぬくもりと暮らし p.40 生活の中の木をね 愛着書 p.58 木で作る</p> <p>愛着の湧くデザインとは？</p> <p>愛着とは？</p> <p>愛着（あいちゃく、あいぢゃく）は慣れ親しんだ物事に深く心を引かれ、離れがたく感じる事を言う。</p> <p>長く使うことができる・長く使いたいと思う 大切にしたいと思う・手入れをする必要がある 使い込むほどに味が出る・愛着が深まる</p> <p>例えば手鏡の他に…</p> <p>文房具（筆箱、ペン、鉛筆、消しゴム、定規、コンパス、はさみ、カッター、のり、車、バイク、自転車、靴（くつ）、スパイク、グローブ、ボール、財布、スマホケース、定期入れ、時計、鞄（かばん）、帽子、服（ジャケット・ジーンズ）杖、家具、柱、階段、手すり、スロープ、机、椅子、かご、食器、しゃもじ、コップ、湯のみ、バック、ダンス、スプーン、バターナイフ</p>	<p>プレゼンシート 【 愛着の湧く、身の回りにあるデザインについて 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">名前</td> <td style="width: 40%;"></td> <td style="width: 50%;">イラスト・絵・写真など</td> </tr> <tr> <td>使用場所</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>主な素材</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>使いやすさ</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>愛着の湧く ポイント</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>木彫鏡制作に活かしたい点、－ 實生活で通用できるデザインとは？－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ <p>愛着の湧くデザインとは、どのようなデザインだと思いますか？</p> <p>【 年 組 番 氏名 】</p>	名前		イラスト・絵・写真など	使用場所			主な素材			使いやすさ			愛着の湧く ポイント		
名前		イラスト・絵・写真など														
使用場所																
主な素材																
使いやすさ																
愛着の湧く ポイント																

<p>プレゼンシート 【 愛着の湧く、身の回りにあるデザインについて 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">名前</td> <td style="width: 40%;"></td> <td style="width: 50%;">イラスト・絵・写真など</td> </tr> <tr> <td>使用場所</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>主な素材</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>使いやすさ</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>愛着の湧く ポイント</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>木彫鏡制作に活かしたい点、－ 實生活で通用できるデザインとは？－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ <p>愛着の湧くデザインとは、どのようなデザインだと思いますか？</p> <p>【 年 組 番 氏名 】</p>	名前		イラスト・絵・写真など	使用場所			主な素材			使いやすさ			愛着の湧く ポイント			<p>相互鑑賞ワークシート 【 愛着の湧くデザインについて 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">愛着者</th> <th style="width: 40%;">良いと思ったところ、感想など</th> <th style="width: 50%;">質問など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>相互鑑賞（色々な愛着の湧くデザインを見て）の感想・コメントをもらった感想など</p> <p>今回学えた中で、今後の制作や、生活の中で活かしたいこと・気をつけたいことなど</p> <p>【 1 年 組 番 氏名 】</p>	愛着者	良いと思ったところ、感想など	質問など																								
名前		イラスト・絵・写真など																																									
使用場所																																											
主な素材																																											
使いやすさ																																											
愛着の湧く ポイント																																											
愛着者	良いと思ったところ、感想など	質問など																																									

VI 成果と課題

今回の検証授業1では、「未来の私のための抽象絵画」を構想し、アイデアスケッチの相互鑑賞を通して、生徒は様々なアイデアスケッチに触れ、自分の考えを深めることができた。より深まった構想を描くことで、作品に対する自分としての意味や価値が強まり、自らの見方や感じ方を深めて主題を見つめ続ける力の育成につながったのではないかと考える。また検証授業2では、「今、そこにあるメッセージ」と題して、身の回りにある抽象画をグループで探してタブレットのカメラで撮影し、題名、主題を考え発表し、相互鑑賞を行った。この活動により、多くの生徒は、様々な視点からの意見に刺激を受けながら視野を広げ、抽象画に対する見方も深めることができた。また、造形的な視点を意識することで、日常生活の中で身の回りにたくさんある美しいものがあることに気付くこともできた。検証授業3では、木彫鏡の制作の途中で、木のぬくもりを感じながら、愛着について考える相互鑑賞を行った。生徒作品の相互鑑賞では、クラスメイトから褒められたり、助言をもらったりすることで、制作意欲が向上した。また、それぞれの思う「愛着の湧くデザイン」を持ち寄り、鑑賞し合つたことで物を大切にする気持ちや社会とのつながりについて考えを深めることもできた。

これらの検証授業を振り返ると、授業の中で生徒の作品の相互鑑賞を充実させたことにより、生徒達は自分一人では思いつかなかった多様な考えに触れる機会をもち、様々な見方や考え方を広げ、深めることができたと考える。まず、ワークシートをそれぞれの授業に合わせて工夫したこと、「言葉にすることで新しい意味や価値をつくりだす活動」につながり、それに自分の考えを広げ、深めることができた。また、授業の中やワークシートに、造形的な視点を働かせることができるような項目を表現や鑑賞のポイントとして具体的に示したこと、色づかいや形、光、全体のイメージ等にも着目しながら作品を鑑賞することができた。

生活や社会の中で「つながる」「生きてくる」と実感できるような題材設定の工夫により、普段の美術の授業ではあまり生活や社会とのつながりを意識することがなかった生徒の中からも、美術と社会とのつながりを感じ、生活の中の美に気付くことのできる生徒も出てきた。「様々な人の意見を聞くことで、自分の固定的な考え方を広げることができ、社会性を身に付けることができる。」と感想を書いた生徒もいれば、「造形的な視点を働かせ、物を見る事を学び、新たな視点で社会を見つめることで、生活がより楽しくなった」と書いた生徒もいた。

このように、検証授業をとおして大きな成果が得られた一方で、これから取り組むべき課題も見えてきた。それは、美術と生活や社会とのつながりについて「美術的なものの見方・感じ方が、私たちの生活や社会をより楽しく豊かにする」ことへの生徒達の理解についてである。いずれの検証授業においても、「つながりを感じる」「生きると思う」と全ての生徒が答えたわけではなかった。今までの経験として、「敷居の高い別世界の物」、「夢物語のような物」というような従来の美術に対する考え方の印象が強かったことも影響していると感じる。これは、題材を通して意識できるようになったこと、気付いたことが日常のどのようなことにつながるかを具体的に振り返る場面が必要であったことが検証授業からも分かる。

今後も、生徒の中から出てきた言葉や姿を真摯に受け止めながら授業改善を重ね、1題材単位ではなく、校種を越えたカリキュラムの在り方も考えていきたい。そして、美術の授業で学んでいることは、生徒自身が日々の生活で楽しみにしていることや好きなもの、美しいものにつながっている、生活や人生を豊かにするものだと実感できる授業展開を考えていきたい。

平成 30 年度 教育研究員名簿

中学校・美術部会

学 校 名	職 名	氏 名
神津島村立神津中学校	主幹教諭	◎ 林 芳樹
世田谷区立桜丘中学校	教諭	松尾 英治
葛飾区立常盤中学校	主任教諭	刈田 麻美子

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 菅野 恒子

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
中学校・美術

東京都教育委員会印刷物登録

平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320—6849

印刷会社 康印刷株式会社

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。